

働けない人はどうする。本来は国が支えなければならぬ問題だが、各自自治体でも出来ることはないのか。
②物価高の中、生活困窮者に対する町の助成は多くの町民の支持を得ている。

ただ問題は、それが過性のものであり継続性が薄いという点。本当に生活に困っている人に対して、「定期的に援助する」ことは可能か。予算の問題もあるが、例えば、国民年金生活者に対して、生活保護世帯との差額分を助成するなどの生活支援が出来ないか。

町長 ご質問については、一般事務の範囲を超えており、答弁は控えますが、政策提案の部分もあるかと思えます。

ただ、提案されたことについては、町の果たすべき責務、適切な財政運営等の観点から、現時点では考えていません。

町長おまかせ予算の実績について

議員 町長は、「町長対話室」を開いて町民の切実な相談（陳情）に応じておられる。どういう相談（陳情）を受けて、それをどのような形で「町長おまかせ予算」に活かされて来たのか、その実績を知りたい。町民からも「おまかせ予算の中身を知りたい」という声が上がっている。

町長 町長対話室は、平成28年の開始から今年の8月末までで合計145回行っています。
お尋ねの「町長おまかせ事業」のみについて申し上げますと、具体的な事業は、継続事業として、ふるさと大町納涼まつりや花火大会、地域の絆づくり事業、絆サンマ祭り事業、大町町・サガン鳥栖絆連携事業などです。

町道城山・浦田線の速度制限と道路標識について

議員 ひじり乃湯から川崎整形外科までの道路（町道城山・浦田線）は、曲がりくねった道路や住宅が林立して見通しが悪い四つ角があり交

通事故も生じている。

また、散歩道としても利用されており、利用者からは「かなりのスピードで側を通り過ぎた」との危険視する苦情も伝えられている。警察とも連絡を取り、制限速度（30〜40キロ）の設定や道路標識の設置が必要と考えるが、対応は可能か。

総務課長 過去の事例から、議員がご質問された道路の速度規制は可能かと思われるので、早速、規制に向けての協議を行いたいと考えています。

次に、見通しが悪い交差点の話ですが、ここは南北に通る町道大谷口線側に一時停止の規制があり、停止線は引いてあります。双方の路線に同時に一時停止の規制をかけることは出来ませんので、停止線は一方側にひくこととなります。

対策としては路面にペイントを施すなど、より安全性を高めるための検討はしていきたいと思っています。

ごみ問題を考える

藤瀬 都子

議員 ①町より配布のごみカレンダーには、守るべき注意点が記載されているが、オレンジ色の不燃物ごみ袋の利用が出来ていないように思います。

リサイクル出来るものは分別を徹底すればごみの量は減少しリサイクル率は上がるため町の収入に繋がるのではないかと思います。

また、小型家電のリサイクルについては周知が徹底していないので今一度呼びかけをお願いします。

②乾電池とリチウムイオン電池の処分方法は違うと思いますので、正しい電池の処理方法の周知と引き取り場所や安全に回収してもらうために町民に注意喚起の呼びかけをお願いします。

生活環境課長

①ごみの減量化については、ごみ分別カレンダー、町報、ホームページ及び回覧等で周知・啓発を行っています。

オレンジ色の不燃物ごみ

袋については、リサイクル可能なカン、びんの混在も一部見受けられますので、町報7月号にリサイクル率向上のため不燃物のごみ袋ではなく、カン・びん専用の袋で出していたかどうかを掲載したところです。

今後、燃えないごみに関する分別チラシの全戸配布を行い、周知・啓発を行っていきたいと思います。

小型家電リサイクルについては、役場または町公民館にお持ち込みいただければ、無償で引き取っています。実績について効果が見られなかったので、今後も引き続き小型家電リサイクルのチラシの全戸配布を行い、町民の皆さんの分別意識向上を図り、ごみの減量化、資源化の推進に努めていきたいと思っています。

②乾電池は、役場、町公民館及び各地区の公民館に回収ボックスを設置して回収を行っています。リチウムイオン電池等は、役場生活環境課窓口で直接引き取